

後援会だより

卒業を祝して

共生システム理工学類後援会 役員一同

ご卒業を迎えられた皆さん、おめでとうございます。そしてご父兄の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

さて、昨年3月11日、未曾有の大災害が起こりました。被災された皆様にあらためてお見舞い申し上げます。

震災ならびに津波・原発事故から1年が過ぎますが、福島県の復興は遅々として進んでおりません。原子力発電は安全が確立された技術ではないことや、非常時に制御することは困難であるということも判明しました。原発事故を受け、放射線医療研究や再生可能エネルギー関連の施設が計画され、福

島県は世界から注目を集める地域となりました。

このたび学問を修め、卒業される皆さんが歩いていく先には、様々な困難に直面する時もあるでしょう。何気なく過ぎていた、ごく当たり前と思われた日常がいかに貴重なものであるか、また家族の絆や地域との連携がいかに大切なものであるかを、皆が再認識したこの時期に、社会に出ていく意味と意義を胸に、苦難にめげることなく、夢と確たる目標と自信をもって、皆さん自身にとって有意義な人生を歩んで下さい。皆さんの財産はその若さと大きな可能性です。そしてその可能性は無限です。皆さんの今後のご活躍をお祈りいたします。

2月には研究分野ごとに卒業研究発表会が行われます。その様子を一部ご紹介いたします。



化学系



材料系



コンピュータサイエンス系

Campus Life
Gallery

～卒業研究発表会～

卒業にあたって

卒業生ならびにご父兄の皆様、心よりご卒業のお祝いを申し上げます。

本年度ご卒業の皆様は大学最終年度を大震災・原発事故という未曾有の状況から開始することを余儀なくされ、様々な困難を克服しての卒業と推察しております。

この度の大震災で、自然の力が人間の想像力をはるかに超えることを思い知らされました。震災後、このような大きな災害が数百年に一度の周期で日本を襲っていたことが広く知られるようになりました。度重なる大震災とそれからの復旧が日本文化の形成に大きな影響を与えてきたのではないのでしょうか。

大震災・原発事故に直面した私達は何らかの形

福島大学共生システム理工学類長 石原 正



でこの震災からの復旧に関与することを運命付けられたと言えるでしょう。卒業生の皆さん

は、この度の大災害を教訓として、「科学には限界がある」ことを確認した上で、身に着けた科学的知識を道具として、より強靱な社会システムの構築に貢献することを目指して頂きたいと思います。

福島大学では、キャンパス内の除染作業を継続的に行いつつ、学生・教職員による復興を支援する様々な取り組みを積極的に行っていく予定です。その中で理工学類の果たす役割は極めて大きいと認識しております。卒業生ならびに後援会の皆様から更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Campus Life Gallery

～卒業研究発表会～



水・地球環境系



計画系



生物系

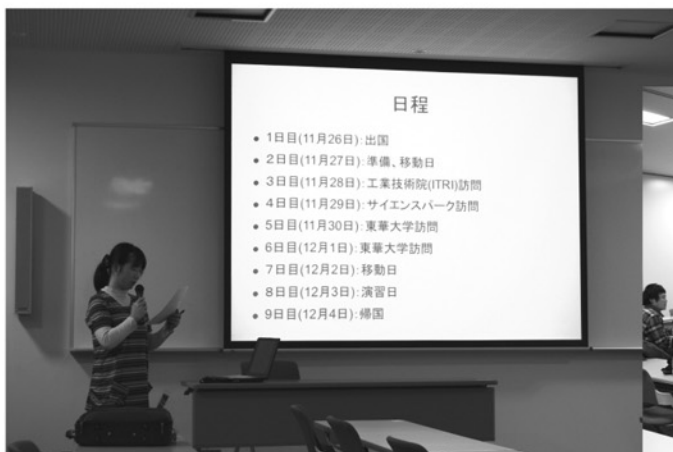
海外演習報告

海外演習報告

今回の海外演習プログラムの訪問先は、台湾でしたが、その中でも、新竹市の工業技術院(ITRI)とサイエンスパーク、東海岸にある花蓮市の東華大学を拠点として、行動しました。近年では、スマートフォン、モバイルパソコン、タブレット型パソコンに代表されるように、従来の日本-アジアNIES-中所得国という軸ではなく、先進国-台湾-中国という特殊な紐帯により形成されている国際分業が、モビリティをもつ製品を中心にみられます。この背景にあるのは、工業技術院と、それに伴い成長した電子部品・電

産業システム工学専攻 准教授 藤本 典嗣

子製品産業を核とした、先進諸国と中国の国際分業における仲介機能をもつ企業群です。日本の日常生活で使っているiPhoneをはじめとするメイドインチャイナの電子製品が、規制緩和の国別相違による創業の自由度、台湾の国-地域としての曖昧性をもたらす特殊な産業政策の役割、企業マネジメントの国際的相違という社会システムによってもたらされていることについて、学生が、現地で実際に目で見ること学んだ演習となりました。



2月13日 海外演習報告会



海外演習報告

産業システム工学専攻 佐藤 貴行

日程の4日目にあたる11月29日は、新竹市にある新竹科学工業園区(新竹サイエンスパーク)を訪問した。台湾ではバイクの交通量が日本に比べてはるかに多かった。また、2人乗りや3人乗りをしているのをよく見かけた。台湾では50ccの原動機付き自転車でも2人乗りをすることができ、シートは2人乗りが可能となるように、階段式になっているものも多く見かけることがあった。3人乗り以上は、台湾においても違法だが見逃されていることがあるのか、かなり見かけることがあった。そして、運転時ヘルメットを被っていない人や、幼い子供(小学生前後)を乗せている

バイクも多く見かけた。また、信号機は点灯時間の残り秒数がカウントダウンされている。福島市では見たことのない光景であり、新竹科学工業園区内の展示室に展示もされていた。

新竹科学工業園区到着後は、全体が中央を向いた扇形の部屋に通され、パワーポイントとパンフレットを用いて新竹科学工業園区の説明を英語で受けた。新竹科学工業園区は1980年に設立され、台湾ハイテク産業の発信地を創り上げることを目的としている。2011年10月現在、パーク内には440社以上のハイテク企業が設立さ

れており、従業員は合計13万人を超えている。新竹科学工業圏区内には、「工業エリア」「居住エリア」「レジャーエリア」に分かれており、工業エリアには政府の建設による研究棟、企業自らの建設による研究棟のほか、銀行、郵便局、診療所、倉庫があり、居住エリアには住宅、またレジャーエリアにはレジャー・スポーツ施設、レストラン、書店、人工湖、ショッピングセンターがある。このように、従業員が仕事と生活を両立できる環境が整っている。説明は20分程度で終わり説明後は、展示室を回りながら説明を聞いた。多くの展示物は触って体験できるものであり音や光を発するものなどが多く展示されていた。

台湾では、漢字を使った表記がいたるところで見られる。漢字が使われているのに、日本語が通じないことに違和感があった。しかし、漢字を見れば多少意味がわかるものもあり、多少不思議な感覚になっていた。新竹科学工業圏区内で説明を受けるときは、日本語、英語、中国語と多くの言葉が入り混じり、日本では感じる事が少ない、貴重な体験ができた。



新竹科学工業圏区
展示施設内のカウンタダウンする信号機

海外演習報告

産業システム工学専攻 下山田 美穂

私は海外演習として11月26日から12月4日にかけて台湾に行ってきました。私が台湾を訪れるのは2回目でしたが、見るもの聞くもの全てが新鮮でとても勉強になりました。

出発前まで自分の語学力についてとても心配だったのですが、実際に台湾で現地の方接してみてもその不安は消し飛びました。最初はなかなか会話の中に入れなかったのですが、台湾の方々と英語や日本語、ジェスチャーなどを使い交流をしていくうちに徐々に自分から会話をできるようになりました。コミュニケーションを取る際に言語というものはとても大切だと思いますが、それ以上にたどたどしくとも積極的に会話する意識を持つことが大切なのだと感じました。

日本から4時間のフライトの後に到着した台湾は11月下旬だというのに20℃を超える暑さで、若干蒸し暑かったです。昼間の空き時間に台湾の町を散策していた時には半袖の人も見かけました。

今回の海外演習で私たちは3つの施設を訪問しました。その中でも私が特に興味を引かれたのは台湾の新竹にある工業技術院(Industrial Technology Research Institute : 通称ITRI)です。

ここでは特許技術の研究を行っていると事前に聞いており、知的財産について勉強している私にとってITRIは訪

問すると聞いてからとても関心がありました。ITRIには海外演習2日目に到着しましたが、到着したのが深夜ということもあり、詳しい見学は3日目に行いました。

3日目の朝その日の仕度をしながらテレビをかけると日本の番組が放送されていました。

後に東華大学の学生との話で台湾のテレビでは日本の番組(アニメやドラマ、バラエティーなど)が多く放送されており、そこから日本について知識を得たり関心を持つようになったりしているそうです。

午前中はITRIの職員の方からITRIについて説明を受け、午後は実際にITRIで開発された製品を紹介していたり、質問をさせていただいたりしました。

ITRIは台湾国内の工業技術の発展促進、新しい科学技術に基づく産業の創出、産業技術水準の向上を目的として作られた1973年に設立された財団法人です。ITRIでは電子情報・通信からナノテクノロジー、材料技術、バイオメディカルテクノロジー、先進製造システム、環境エネルギー技術など幅広い研究開発分野をもっています。それらの研究から創造される特許は毎年2000件以上あり、毎年1000近い特許を獲得しています。2011年(11月)においてITRIは2万件以上の特許を獲得しているそうです。またその特許を有効利用するために台湾国内の企業や研究機関など多くの組織が一体とな

り、ITRI所有の特許と技術ライセンスを組み合わせること
で新たな産業の創出に力を注いでいます。こういった技
術移転は年に800件にも及ぶそうです。この他にもITRI
はベンチャー企業の育成に力を入れるなど、台湾国内の
産業発展に無くてはならない存在となっています。

展示室ではITRIで開発された製品を見学しました。眼
鏡をかけなくとも裸眼で3Dとして見られるテレビや曲げ
ることができる薄型ディスプレイ、太陽光のうち温度を上
げる光線のみを遮るガラスや人の体に負担がかからない医
療器具など数多くの製品が展示されていました。ITRIで
は半導体に特に力を入れていることもあり、半導体関連
の製品が多くあったように思います。

その中でも私は親指の爪ほどのソーラーパネルで動く
ミニ四駆に興味を持ちました。とても小さなソーラーパ
ネルですが、そこから生まれる電気エネルギーは大きく、
太陽光でなくともライトを当てるだけで十分な速さで走
行しました。小学校の頃に作った時の大きなパネルでの
ろのろ歩くソーラーカーのイメージがあったため、小さい
パネルで早く走行するミニ四駆の姿に驚きました。紹介さ

れる製品一つ一つが私にとって初めて見るものが多か
ったので感嘆すると共に、新しい技術を開発することの素
晴らしさを改めて感じました。

今回の海外演習は私にとってとても貴重な経験ができ
た実りあるものでした。今後英語だけでなく台湾の語学
や文化についても学びたいと思いました。



工業技術院にて

海外演習報告

産業システム工学専攻 千葉 史人

今回の海外演習は私自身にとって初めての海外である
と同時に、最も重要であると思われる語学力に自信がな
いという観点から出発一か月程前からずっと不安だけが
増していく状況でした。しかし、海外演習の期間中や帰国
後である今の心情を考えると、海外初心者にとって行動し
やすい台湾が行先であったことは、出発前の不安を払拭
できるほど日本では経験できないことを体験することがで
き、本当に貴重な8日間を過ごすことができたと感じてお
ります。

特に国立東華大学への訪問が私にとって最も印象的な
出来事の多いものでした。東華大学へは5日目と6日目に
訪問させていただきました。5日目は、ホテルまで東華大
学で助理教授(日本における准教授)をなさしている田島
眞弓先生が迎えに来てくださり、30分ほどかけて福島大
学と同様に郊外にある東華大学に向かいました。その後
研究室を訪問させていただき、その日一番のイベントであ
る大学院生との交流会にも参加させていただきました。6
日目は昨日と同様に8時ごろホテルから東華大学に向か
い、田島先生、主任の先生も参加いただき学部生(3
年生30人)との交流会を行いました。

その後は昼食会を大学の景色のよいレストランで先生・

大学院生・学部生10名ほどで行い交流を図ることができ
ました。

このような日程で5、6日目の日程を過ごした中で、最も
印象に残っているのは学部生および学生との交流会でし
た。まず、日本人の学生が大学に来ることを楽しみに待っ
ていることは出発前から伺っておりましたが、その歓迎ム
ードは予想以上のものでした。また、質問タイムでは東華大
学の学生から、漫画・音楽・芸能・ファッション・食事から雇
用・国際関係に渡ることまで幅広い質問があげられまし
た。そのように、台湾の学生は積極的に分からないことを
聞いて新たな知識を吸収しようとする好奇心旺盛なところ
と、何事においても自分自身の意見を持っているところに
私は感服しました。そして、この交流会を通して、台湾の
大学生の8割が文系・理系問わず大学院に進学し、その
ために大学3、4年の頃は院試を受験するための予備校に
通うという日本では絶対に考えられないことがあるというこ
とも知りました。そのためになおさら、大学の勉強の部分と
自分自身の趣味を通して新たに視野を広げていく部分を
両立して高めていくことができているので、そのメリハリを
つけて行動ができることを特に私も見習っていかなけれ
ばならないと考えさせられました。

後援会の主な事業内容

- 4月1日～3月31日 … 課外・教育研究活動助成／
専攻交流会・グループ交流会助成／
学生活動補助
資格・検定受験料補助／
学類運営補助／
就職指導対策補助
- 5月9日 …………… 定期総会
- 6月29日 …………… 学業優秀者表彰1年～3年
- 8月8日 …………… オープンキャンパス
- 11月26日～12月4日 … 海外演習
- 9月 …………… 後援会だより13号発行
- 10月29・30日 …………… 福大祭
- 10月29日 …………… 親のための就職セミナー
- 3月 …………… 後援会だより14号発行
- 3月10日 …………… 後援会理事会
- 3月26日 …………… 学業優秀者表彰4年

※本年度は東日本大震災のため、
インターンシップは実施されませんでした。

資格試験受験実績

TOEIC(カレッジTOEICを含む) …	57
公文書管理検定……………	3
環境計量士……………	1
危険物取扱者……………	3
ボイラー技士……………	1
情報処理技術者……………	4
ネットワーク接続技術者……………	1
気象予報士……………	3
知的財産管理技能検定……………	1
日商簿記……………	4
ドイツ語検定……………	2
宅地建物取引試験……………	1
秘書検定……………	5
漢字能力検定……………	1
フランス語検定……………	1
TOFEL ……………	1
IELTS……………	1
GRE ……………	1
MOS ……………	1

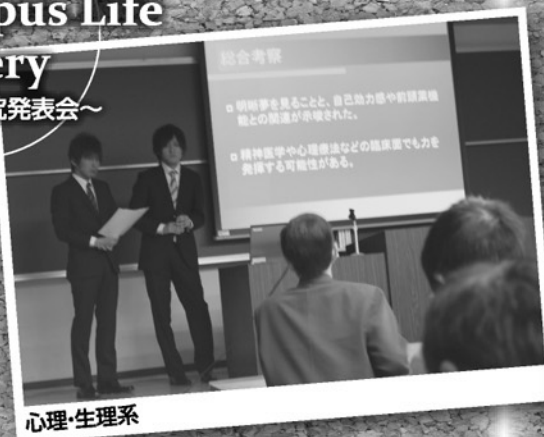
お知らせ

共生システム理工学類後援会
平成24年度総会・懇談会

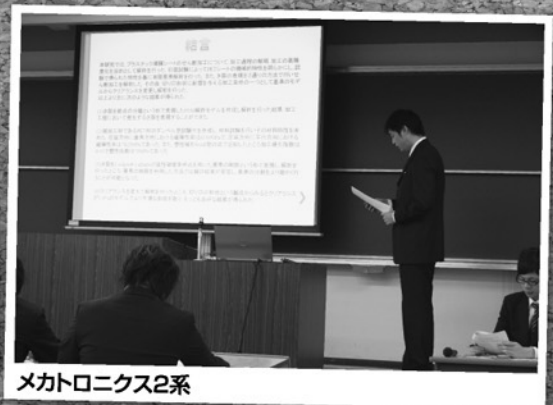
下記のとおり後援会総会・懇談会を開催いたします。
平成24年4月4日 午前11時～12時
福島大学共通講義棟 L3教室

Campus Life
Gallery

～卒業研究発表会～



心理・生理系



メカトロニクス2系

ご意見・ご要望は下記 共生システム理工学類後援会 まで

事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。 <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>